

様式第 1 号別添 3

安全衛生優良企業における安全衛生取組事例シート

企業名	ニッポン高度紙工業株式会社
-----	---------------

安全衛生取組事例

① 安全 3H 活動の推進

労働災害の未然防止に繋げる新たな活動として、事故やトラブルは 3H（初めて、変更、久しぶり）の時に発生することを会社全体で認識し、事前に KYT やリスクアセスメント等を実施した上で作業を行い、その取り組みを報告・共有する活動を行っています。

② 安全活動の全社共有

●被災・ヒヤリハット事例を全社共有することで同様の被災事例を発生させない活動を行っています。

●全社パトロールの実施

各事業所の安全衛生委員が互いの事業所をパトロールし、安全衛生委員会に出席・報告することで、事業所間の交流や安全衛生活動の情報の共有化を行っています。

③ 社内安全体感教育

事故の怖さや事故に至る知識について体感を通じて学び、個々が安全に対する感性を身につけることで、労働災害の未然防止に繋げることを目的として、社内にて安全体感教育を実施しています。

④ 防火管理体制の強化

安全衛生委員会メンバーや火元責任者等を対象に「消防学校による消防基礎教育」を受講し、社内の防火管理水準のレベルアップおよび従業員の防火管理意識の向上に取り組んでいます。

⑤ 集団健康学習

毎年の健康診断結果より、各事業所の衛生管理者を中心とした健康に関する学習や運動指導学習を実施し、健康維持・改善に繋げる活動を行っています。

3H活動の導入について

安全衛生委員会事務局

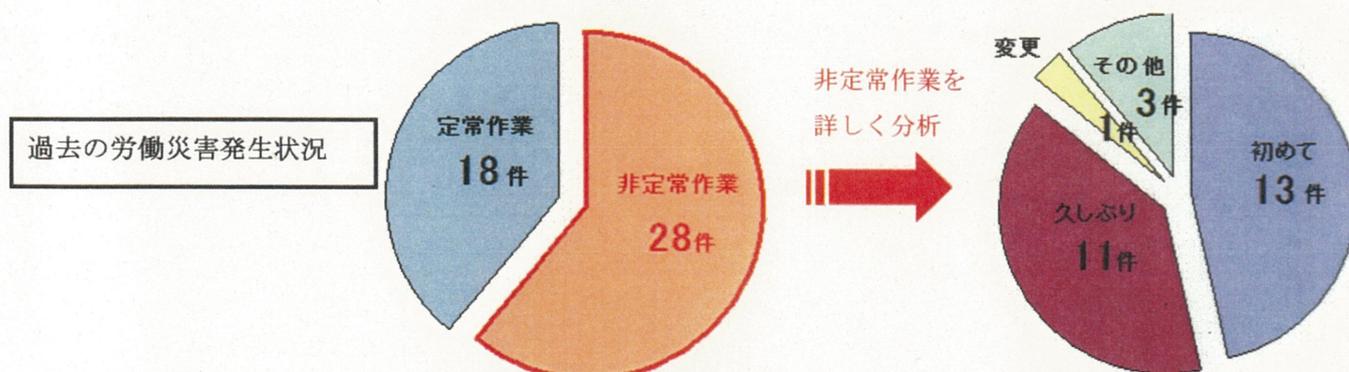
1. 3Hとは

事故やトラブルは3H【初めて (Hajimete)、変更 (Henkou)、久しぶり (Hisashiburi)】の時に起き、定常時には極めて少ない傾向が確認されている。3H活動とは、事前に3Hの視点で課題を“気づき”、問題が発生しないように、確認しながら仕事を遂行する仕組みで事故やトラブルを防ぐ未然防止手法である。

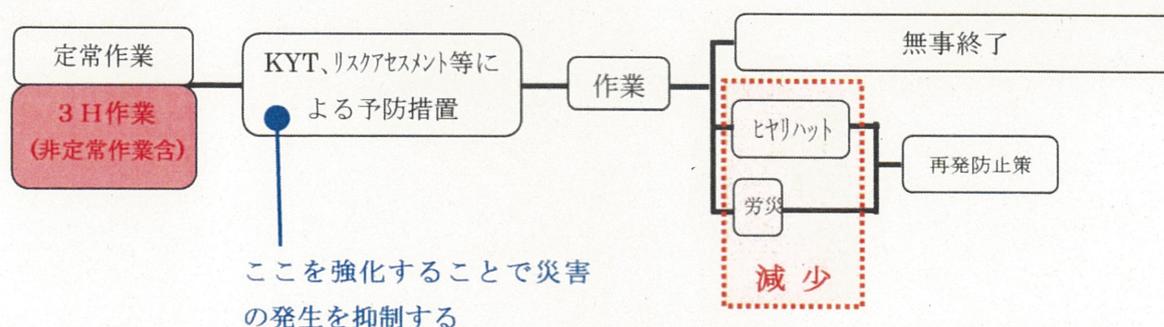
事故やトラブル発生の場合には、その再発防止（是正処置）は必須であるが、大きな経済的負担や人身事故を経て行う再発防止ではなく、未然防止（予防処置）がますます重要になっている。

2. 導入の背景と目的

過去被災事例を分析すると、非常作業で28件（60%）、定常作業で18件（40%）の災害が発生している。さらに、非常作業を3Hの視点で分析すると、25/28件（90%）が3Hに関連する災害であり、「初めて」では新入社員や異動後間もない社員によるものが多く、「久しぶり」はトラブル時やメンテナンス時の発生が多い結果であった。このことを受け、日頃の業務の中で3Hの視点を意識した活動を取り入れることで未然に災害発生やヒヤリハットの発生の減少につなげたい。



《 導入後のイメージ図 》



3. 3Hの視点のポイント

非常時における災害の大部分が3Hに起因しているため、日頃行っている業務の中で4M（作業、機械、使用材料、作業方法）のそれぞれについて3Hの視点で見ることにより危険性を改めて認識し、事前に対策を検討し、取り組むことで効果的に災害発生の抑制につなげる。

3 H思考体系

製品実現
初めて
変更
久しぶり

- 人**
 - 初めて：新入社員(新卒、中途、パート、アルバイト)
 - 変更：配置転換(人事異動)
 - 久しぶり：職場復帰(育児休業明け、療養復職)
- 機械**
 - 初めて：新規導入設備(機械、金型、治具)
 - 変更：仕様変更、修理した設備(。)
 - 久しぶり：半年以上不使用の設備(。)
- 材料**
 - 初めて：新規使用材料
 - 変更：材料仕様変更、材料メーカー変更
 - 久しぶり：半年以上間隔があいて仕入れた材料・在庫材
- 方法**
 - 初めて：初めての作業(製作、検査、管理)
 - 変更：作業の変更(。)
 - 久しぶり：半年以上間隔があいて行う作業(。)



4 M

		3 H		
		初めて	変更	久しぶり
4 M	人	新人	配置転換	職場復帰
	設備	新規	修理	再稼働
	材料	新規材料	材料変更	長期保管
	方法	新規製造	製造方法変更	久しぶりの作業

KYT、リスクアセスメントを実施し
事前準備や職場改善につなげる

以上

安全活動の全社共有について

安全衛生委員会事務局

【ヒヤリハットおよび被災事例の全社共有】

1. 目的

各事業所・部署におけるヒヤリハットおよび被災事例を全社共有することで、職場改善などの事前対策を通じて、労働災害の未然防止につなげる。

2. ポイント

各職場にて所定の様式に、ヒヤリハットおよび被災事例のほか、発生していない気になる事例（気がかり情報）についても記入し、全社共有ファイルに転送することで全社的に共有し、同様の事例が発生することを未然に防いでいく。

2013年4月より運用開始する。

事実報告を履歴に記入した日を入力する。
※ 報告者名の入力は任意です。

管理No	全社 or 所属	ヒヤリ ハット or 被災	発生日		事実 報告日 (報告者)	事業 所	部	課	発生場所	事故区分	事実報告			
			年	月 日							どのような場所で どのような事象しているときに	不安全な状態(〜なので)	不安全な行動(〜して)	
000	OK	ヒヤリ ハット	2012	9 24	2012/9/26	本社	事務総室	総務一課	ワイヤープート	有害物等との接触	作業ラインの磨耗洗浄を怠り、点検中に想定外の所から水垂れを発生させているところがあった	磨耗清掃を1回で作業ラインの点検を行ったが想定外の所から水垂れ状態で発生していた	水漏れ下場所に近づき	
001		ヒヤリ ハット	2013	1	2013/1/1	2013/1/1	本社	事務総室	総務一課	プライベート	衝突	警備ロボットで取付した時に急いで車を動かすことになったので、リールアップで足もむらった	スペースが狭いので	急いで取付口へ近づいて
002														

事実報告を履歴に記入した日を入力する。
※ 報告者名の入力は任意です。

リストからヒヤリハットまたは被災を選択
※被災の場合は、被災報告書(第1報)を安全管理課に送付してください。

リストから所属事業所・部・課を選択

リストから発生場所の区分を選択
※工程トラブルパート区分を基に一部追加したもので区分

リストから事故区分を選択
※中災防の労働災害分類の手引に記載されている区分

事実報告を記入

【全社パトロールの実施】

1. 目的

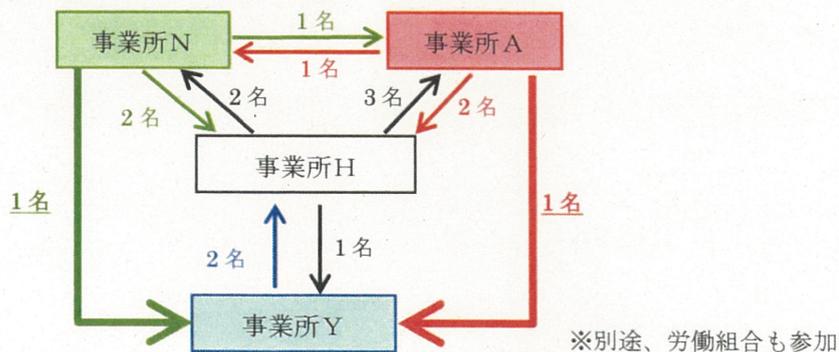
昨年度は、全事業所で全社パトロールを実施するとともに参加者が対象事業所の安全衛生委員会に出席しパトロール結果を報告することで、事業所間で交流する機会となった。

今年度も、事業所間で交流する事の他に、新たに安全面・衛生面の統一重点項目を設定し、全社的に重点項目への取り組み状況を確認する機会とする。

2. 全社パトロールのポイント

ポイント	内容	備考
①	担当者は対象事業所の安全衛生委員会前にパトロールを行うとともに安全衛生委員会に出席し、結果を報告する。	—
②	<p>昨年までは各グループで重点項目を設定していたが、今年は全社パトロールの統一重点項目を安全面と衛生面で設定する。これにより、パトロール者と各事業所が重点項目に関して改めて見直す機会とする。</p> <p>●安全面……転倒・転落災害の防止策の確認 【理由】当社では転倒に関するヒヤリハットが最も多く、また全国的にも同様の傾向がある。各事業所の転倒防止への取り組み内容を確認するとともに被災時に重傷となる可能性が高い転落災害の取り組みを確認する。</p> <p>●衛生面……化学物質の取扱い 【理由】2016年6月に化学物質のリスクアセスメントが義務化および必要な対策が努力義務化されるのに伴い、他事業所の目線から化学薬品の使用、管理状況および保護具の準備や着用状況などの確認を行う。</p> <p>●その他……3H活動の取り組み状況 【理由】今期から導入した3H活動を他事業所がどのように取り組んでいるのかを確認する。</p>	新たな取り組み
③	統一重点項目以外にも、良い点や改善が必要な内容の確認を行う。	—
④	事業所A、Nから事業所Yへのパトロール担当者を選抜する。	新たな取り組み

3. 各事業所の全社パトロール参加者数



以上

社内安全体感教育の運用開始について

別紙③

安全衛生委員会事務局

1. 背景・目的

2009年に事業所Aにて社内実施した安全体感講習ならびに今期、事業所Yにて社外安全体感講習に参加した内容をもとに、新入社員教育や異動時研修、5年次研修の項目のひとつとして、定期的社内安全体感教育が実施できるよう内容を検討し、85期より実施する。

2. 安全体感教育項目

項目	内容	詳細内容	使用する機材および準備が必要な機材
① 挟まれ・巻き込まれ ・チェーン ・ベルト ・ローラー ・ドリル	軍手巻き込まれ(引き込まれ擬似体感、破壊力) 軍手巻き込まれ(引き込まれ擬似体感、破壊力) 布の巻き込まれ(引っ張られの体感) 軍手巻き込まれ(擬似体感)	手動で回転させチェーンに竹を挟み威力を体感 手動で回転させベルトに竹を挟み威力を体感 モーターを低速で回転させ力比べ 回転しているドリルに軍手を接触させ巻き込ませる(皮手との違い)	装置製作、竹 工務の電動ドリル、軍手、竹、洗濯バサミ
② 玉掛け	・ホスト挟まれ擬似体感(竹を使用) ・荷物の振られ ・クレーンの一人作業 ・ホストの玉掛け(パイプ)	ワイヤーと荷物に竹を挟み、体感する 荷物を振らせ人の力で止めれるか体感する 玉掛けとホストの操作を一人で作業し作業性の悪さを体感する パイプの片側を重くし、重心を探す	ホスト、ワイヤー、竹、シャックル 荷、ホスト、ワイヤー、シャックル 荷、ホスト、ワイヤー、シャックル、パイプ
③ 挟まれ・巻き込まれ	・シリンダーによる挟まれ擬似体感 ・軍手の巻き込まれ	エアシリンダーを活用し竹をはさみ、体感する 電動ドリルに軍手を接触させ巻き込ませる	シリンダー装置
④ 安全帯着用	・安全帯着しぶら下がり体感 ・軍手と皮手のキリコの着き方 ・それぞれの工具による作業性	ホストを活用した吊り上げ装置(通常、新しいタイプ) 軍手と皮手のキリコの着き方を実験 ネジをモンキーを使用したときとスパナを使用したときの体験	フルハーネス型安全帯 軍手・皮手・竹、キリコ モンキー・スパナ、ネジ
⑤ ジェッター	・水圧の擬似体感	・りんごの破壊など(保護具の効果も)	ジェッター、りんご、石鹼など
⑥ 梯子作業	・長梯子の体感および設置位置の確認 ・脚立と作業台の作業	高所体感 高所作業で道具での作業性	長梯子、安全帯、ロープ 脚立、作業台、ネジ
⑦ 落下	人形による落下衝撃の擬似体感	約50kgの人形を高所から落下させ威力を実感させる	人形製作
⑧ その他	・ポケットと荷物を持ってバランス体感 ・大きい箱と小さい箱の重さの体感	1本橋で通常歩行とポケットに手を入れ歩くのと荷物を持って歩くことを 大きい箱は軽く、小さい箱は重く見た目と違う体感	リン木、バール缶、水 大きい箱、小さい箱、荷
まとめ	・体感発表	ディスカッション	

3. 実施場所

事業所A(工務室、倉庫等)

4. 対象者

- 新入社員
- 五年次研修者
- 部門間移動者(間接部門 ⇒ 製造部門)
- その他

5. 実施状況



防火管理体制の強化

安全衛生委員会

1. 目的

当社における防火管理水準のレベルアップおよび従業員の防火管理意識向上を行うことを目的に、各職場の火元責任者やリーダーを中心とした初期消火活動が安全かつ迅速に行えるよう、安全衛生委員会メンバーや火元責任者等を対象として計画的に「消防学校による消防基礎教育(※)」を受講している。

受講者は、防火管理に関する知識や消防設備の正しい取扱方法・技能を修得し、各職場の教育訓練の主導的な役割を担うことで、当社の防火管理体制の強化に繋げていく。

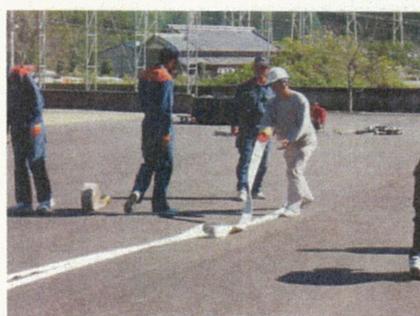
2. 訓練内容

消防学校による消防基礎教育の前期・後期（各2日）にて、基礎的知識と技能を修得。

【前期】： 基礎知識、訓練礼式、放水訓練

【後期】： 防災（地震、土砂災害）、火災防御/安全管理、震災対策訓練

3. 訓練風景



※本来、新たに任命された消防団員に対する教育であるが、当社より依頼し参加許可を頂いている。

以上

2013年度健康づくり推進活動報告

2013年安全衛生委員会年間計画に基づき、以下のとおり健康づくり推進活動（集団健康学習）を実施した。

【背景・目的】

当社の健康診断において、毎年、「脂質」・「肝機能」等の有所見率が高いことを受け、生活習慣の改善による健康障害の予防等を目的とし、外部講師による集団健康学習を高知各事業所において実施した。

1) 講習内容

講義（50分） 外部保健師による生活習慣病改善・予防講習（主に脂質、肝機能について）
運動（30分） 健康運動指導士による健康体操

2) 実施日等

	日付	回数	対象部門
2013年	9月30日(月)	2回	事業所A
	11月18日(月)	2回	事業所N
	11月25日(月)	2回	
	12月27日(金)	4回	事業所H
2014年	1月23日(木)	2回	事業所H
	1月28日(火)	3回	

3) 実施後のアンケート結果

アンケートの結果、講義・運動指導ともに、参加者の80%以上が「内容に興味がある」との回答であった。また、講義内容については、ほぼ全員が「理解できた・だいたい理解できた」との回答であり、自分の生活習慣の振り返りと健診結果から考えられる体の変化（このままの状態が続けばどのような病気につながるか）等について認識する機会になったと考える。

4) 今後の取組みについて

生活習慣の改善については、「関心はあるが実践できていない」、また「実践が継続しない」従業員が多いと思われるため、今後も同様の取組みを定期的に行うことで、生活習慣改善等の意識向上につなげたい。

講義の内容については、従業員の希望も参考にしながら今後計画していく。

別紙（アンケート結果）

以上

